

11 月例会は「旅立ちの島唄～十五の春～」

新入会員募集中！

加古川シネマクラブ設立から12年目を迎えています。平成になる前に加古川に映画館が無くなってしまい、平成13年のワーナー・マイカル・シネマズ加古川ができるまで、市内で映画を観る場所が無かったのです。この間に、神戸や姫路の映画鑑賞サークルの活動を手本に準備し、会員が選んだ作品を鑑賞する映画鑑賞団体として2002年に86名で活動がはじまりました。

現在の会員数は165名です。最盛期の2007年には約214名でしたが、2009年には153名まで減少してしまい、その後、この会の運営がかなり苦しい状況が続きました。周囲の方のご支援や、皆さんがチラシを持ち帰り知り合いにお声掛けをいただいたおかげもあって、1年前は185名まで盛り返しました。

しかし、また厳しい状況になりそうです。今年度は、5月例会『人生、いろいろ』を特別例会とし、一般の入場料収入で運良く若干の黒字となったため、まだ赤字になっていないと思いますが、今年度末か来年度はじめに、赤字に陥りそうです。

今までも何度か説明したとおり、例会である映画鑑賞会を中心とした活動のためには約200名の会員規模が必要です。180名以下ではどうしても赤字になってしまいます。

会員の皆様には、チラシを持ち帰って宣伝いただくなど、新入会員募集にご協力いただきますようお願いいたします。

例会作品は、しばらくは、心温まるヒューマンドラマが続きます。これは、今年1月の『汽車はふたたび故郷へ』が、ストーリーがおもしろくないうえに、監督の経歴や考え方や、そして、その土地の政治体制や時代背景について予備知識が無ければ、わかりにくい作品であったため、たいへん不評でした。その反動によるものが大きいようです。それだけでなく、新入会いただきやすい、明るくわかりやすい作品を選ぶ雰囲気が強くなっていることもあります。

新入会員募集について、重ねて、ご協力をお願い

いたします。

例会のお知らせ

■名称／第63回例会『旅立ちの島唄～十五の春～』

■日時／11月19日(火) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～。

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■会員の受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



【例会作品データ】

■タイトル／旅立ちの島唄～十五の春～

■監督／吉田康弘

■出演／三吉彩花、大竹しのぶ、小林薫、早織、立石涼子

■データ／2013年、日本、114分、ドラマ／ヒューマン／青春

■**作品介绍**／沖縄本島から東へ 360 キロ離れた南大東島には高校がなく、中学を卒業して進学する若者は、必ず島を出てひとり立ちしていく。島唄グループでリーダーを務める中学 3 年生の優奈も、あと 1 年で生まれ育った島を出なければならぬ。

さとうきび農家の父のもとから、高校生の姉とともに母親が島を出てから家庭内の空気は変わった。

家族と離れ離れになることへの不安や、未知の世界への好奇心を抱きながら、優奈は最後に島唄を歌いきって旅立とうと前進していく。

最近、増えてきた沖縄を舞台にしたドラマで、ほろにがい青春沖縄映画というところでしょう。

アイドルグループ「さくら学院」のメンバーとしても活躍した**三吉彩花**の映画初主演作、両親役は、**大竹しのぶ**と**小林薫**。

映画前売券のご案内

兵庫県映画センターからのご案内です。以下の 3 作品の前売り券を 900 円で販売します。例会会場でお声掛けください

『くじけないで』(2013 年 11 月 16 日～)

(監督／深川栄洋、出演／八千草薫、武田鉄矢、伊藤蘭、檀れい、芦田愛菜)

『武士の献立』(2013 年 12 月 14 日～)

(監督／朝原雄三、出演／上戸彩、高良健吾、西田敏行、余貴美子、夏川結衣)

『小さいうち』(2014 年 1 月中旬～)の 3 作品の前

(監督／山田洋次、出演／松たか子、黒木華、片岡孝太郎、吉岡秀隆、妻夫木聡)

いずれも、当日一般 1800 円、シニア 1000 円、イオンシネマ加古川・明石、神戸国際松竹などで上映予定。



前回例会の報告

9 月 19 日の例会では、1960 年代のフランスを舞台に、フランス人資産家とスペイン人メイドたちとの心の触れあいを描いたヒューマン・コメディ『屋根裏部

屋のマリアたち』を鑑賞しました。

楽しく良質な作品で、参加者からも好評を得ました。参加者 116 名。

このところ、多くの方が良い映画と感じる、ヒューマンドラマの作品が続いているだけに、参加者が相変わらず少なく、残念というか、もったいない感じがします。

当日は、道路工事の影響で、周辺が大渋滞で、車で来場した方は、たいへんな目に遭ったとか。お見舞いいたします。

今思うことー「希望の国」を観てー

先月、明石シネマクラブの例会で『希望の国』を観ました。福島原発事故の翌年に作られた作品で、とある原子力発電所の近くの町で、福島原発事故から数年後に、大地震による原発事故が起こり、見えない放射能や、不確かな情報に翻弄され、平和な家族の生活が変わっていくというストーリーです。ふつうの家族とふつうの街の景色の中で、見えないモノと対峙していくようすが、ドラマが実によく描かれていました。当然、現在の福島第一原発周辺の人々の生活と重なるものでした。

とくに、今夏に亡くなった主演の**夏八木勲**さんの演技が、誠に素晴らしく、こんなに芝居の上手い俳優さんだったのかと、スクリーンの前で、感心ひとしおでした。

また、**園子温**監督に対して、あの時期に、この高い質の作品を、脚本を仕上げ、キャスティングし、撮影し、上映までこぎつけたことに対して、尊敬の気持ちさえ湧いてくるものでした。

もう少し早く観ることができていれば、加古川シネマクラブの例会に強く推薦していたのに、その点は残念でした。(ハインリッヒ)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 165 人(9 月 19 日現在)